

スタッフが捉えた副看護師長の役割

高知大学医学部附属病院

○森木 妙子（1階東病棟）

国立病院機構四国がんセンター

十亀 美千代

キーワード：副看護師長 役割

【研究目的】

スタッフが捉えた副看護師長の役割を構成する要素とその関係を明らかにする。

【研究方法】

対象は独立行政法人の7:1看護を採用する急性期病院の看護師244名。研究デザインは質問紙による量的研究。調査項目の作成は独立行政法人病院機構作成による『看護師長・副看護師長ハンドブック』の機能評価（大項目32 小項目131）を参考に31項目を抽出し、尺度は5段階評定の間隔尺度を用いた。31項目のクロンバック α 係数は0.972であった。分析はSPSS Amos Ver. 5.0の共分散構造分析（最尤法）を行った。倫理的配慮は対象施設の倫理審査委員会を受審し研究実施の承諾を得た。対象者に研究の趣旨、自由意志、プライバシーの保持、結果の公表について書面で説明し、アンケートの回収をもって同意とした。得られたデータは本研究以外に使用しない。

【結 果】

186名のスタッフから回答が得られ回収率は76.2%であった。副看護師長の役割は5つの構成概念から成り立っていた。5つの構成概念とは【看護単位の組織的対応】【業務管理】【スタッフの擁護】【患者ケアの質の維持】【部下の育成】である。概念間の関係から【看護単位の組織的対応】は【業務管理（パス係数0.88）】及び【スタッフの擁護（パス係数0.91）】と因果関係が成立していた。さらに【業務管理】は【患者ケアの質の維持（パス係数0.89）】、【部下の育成（パス係数0.97）】と関係していた。決定係数の値より【スタッフの擁護】の84%が〈心身の健康管理の指導〉〈部下や職場の安全管理〉の要素で構成され、【部下の育成】の95%が〈看護職員の能力開発〉〈リーダー育成〉で構成されていた。また【患者ケアの質の維持】の78%が、患者中心の看護展開指導〈看護記録から質評価〉で構成され、【業務管理】の77%は、〈効果的な病床管理の指導〉〈各チームの活動状況の把握と支援〉〈業務改善〉の3項目で構成されていた。

【考 察】

スタッフが副看護師長に求める役割は、スタッフの擁護と部下の育成に関する内容の期待が強い。業務管理や患者ケアの質の維持についても役割としての認識は低いとは言えない。従って副看護師長の5つの役割とその因果関係から、スタッフは副看護師長の役割を重要でありかつ重責を担っていると捉えていると考えた。

〔平成20年8月22・23日 第12回日本看護管理学会（東京）にて発表〕